

パリ協定交渉： バンコクからカトヴィツェへ COP24の注目点

COP24直前セミナー

パリ協定交渉の最前線と
世界の気候変動対策のトレンド

主催：Climate Action Network Japan (CAN-Japan)

2018年11月20日（火）14:00-16:30

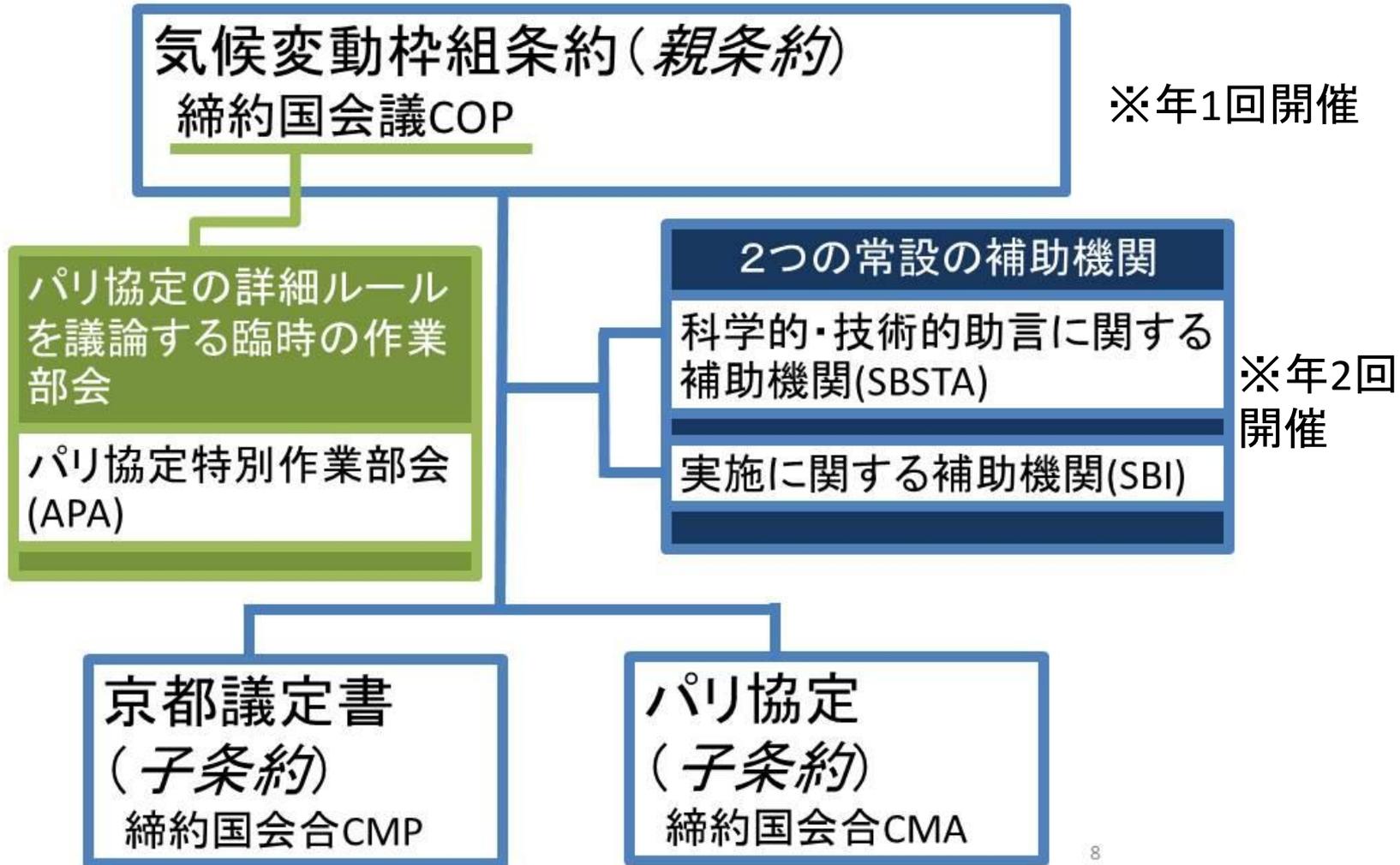
会場：ビジョンセンター永田町801



認定NPO法人 地球環境市民会議(CASA)

事務局(国際交渉担当) 土田道代

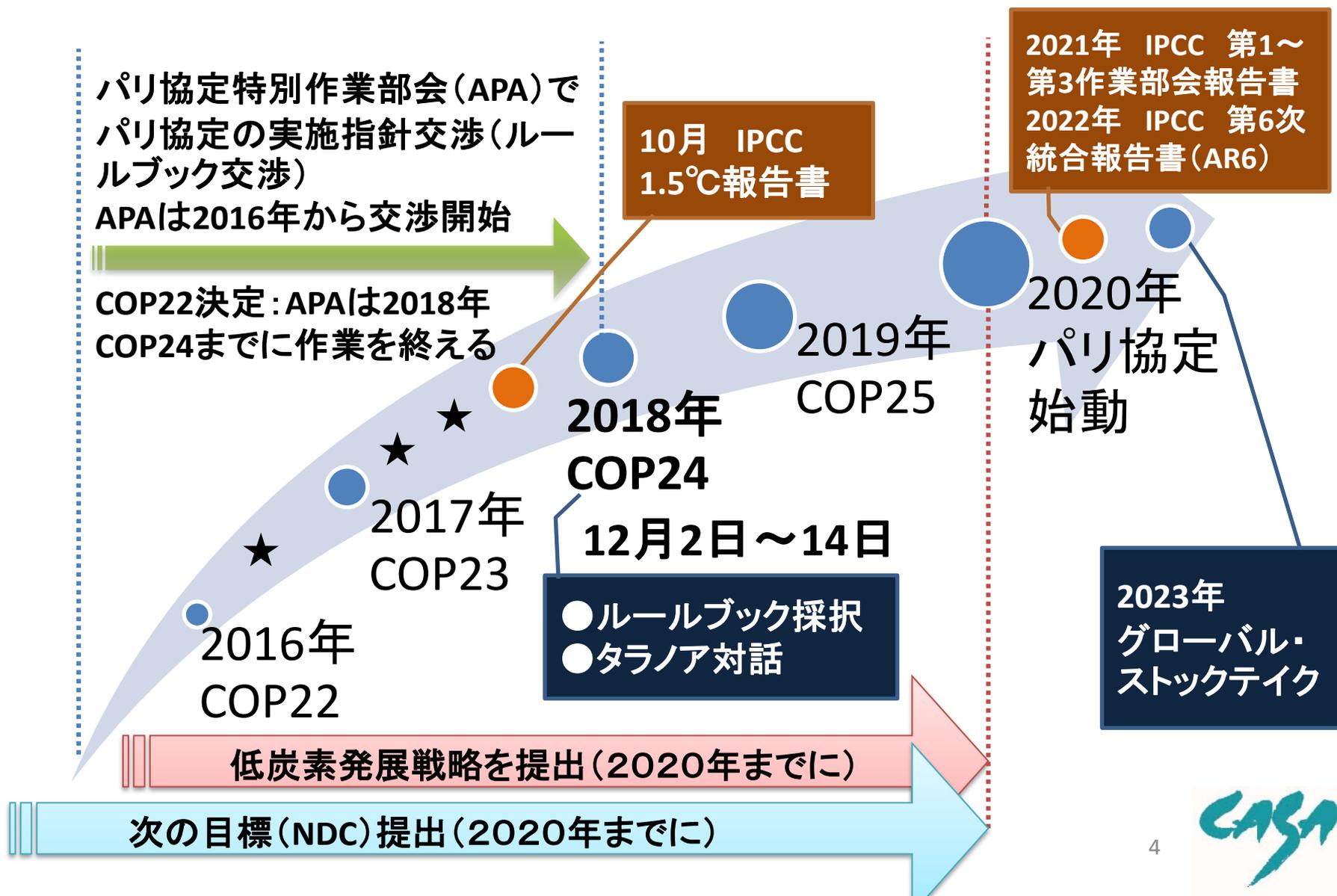
国際交渉の場



APAでの交渉テーマ

APAの 議題番号	テーマ
3	緩和、国別約束(NDC)
4	NDCに含まれる適応通報
5	透明性枠組みの手続きとガイドライン
6	グローバル・ストックテイク
7	実施と遵守を促進する委員会の効果的な運用のための ルール
8	適応基金／適応基金以外

パリ協定始動に向けたスケジュール



パリ協定

- すべての国が、NDC(国別約束)を策定し、国連に提出し、国内で排出削減措置を実施する義務(4条2)
- 2025年目標を持つ国は2020年までに新しいNDCを提出、以後、5年ごとに提出(dec.1/CP21,パラ23)
- 2030年目標を持つ国は2020年までにNDCを提出またはアップデート、以後5年ごとに提出(dec.1/CP21,パラ24)
- NDCは、その国のそのときのNDCを超えるもので、最も高い削減水準のものを提出する(後戻り禁止)(4条3)
- NDCには情報を付けて提出する義務があり(4条8)、説明する義務がある(4条13)
- パリ協定の目的、長期目標に対する全体の進捗状況を確認するしくみ「グローバル・ストックテイク」、第1回を2023年に開催、以後5年ごとに開催(14条)

※パリ協定から排出削減策の部分をピックアップして掲載。

COP24の注目点①ルールブック(1)

- パリ協定の実施指針交渉（「ルールブック交渉」）
 - 2018年のCOP24でルールブックを採択する
 - 2015年COP21でパリ協定採択
 - 2016年11/4パリ協定が発効（いわば「嬉しい誤算」）、2016年11/7からのCOP22でCMA1を開催するも、このタイミングではルールブックの採択はできず、上記の交渉スケジュールに合意
 - 交渉期間は正味2年間
 - 京都議定書の場合、ルールの政治的合意まで3年7ヵ月、法的文書にするまでに4年かかった

COP24の注目点①ルールブック(1)-2

- 2018年9/4-6/バンコク会議（COP24前の最後の交渉）で期待された成果
 - 政治的な判断が必要なものはCOP24の閣僚級会合での交渉へ、それ以外のところは整理をして、COP24で採択できるような文書草案に近いものをつくること
- 9月9日付306ページのテキスト
 - APA、SBSTA、SBIで議論されてきたものを事務局が1本化
 - 議題間で進み具合にばらつきあり。かなり進展がみられた議題もある一方、テキストとして4-5月のボン会議からアップデートできなかった議題もあった
 - 議題間のリンケージ...**技術的な**難しさ
 - 歴史的責任からくる伝統的な対立...**政治的な**難しさ

APA、SBSTA、SBI議長団に、ここまでの進展とテキスト草案の案、このあとの進め方を含む「合同リフレクションノート」を、10月のプレCOPまでに準備させることに合意
< <https://unfccc.int/node/28798> >



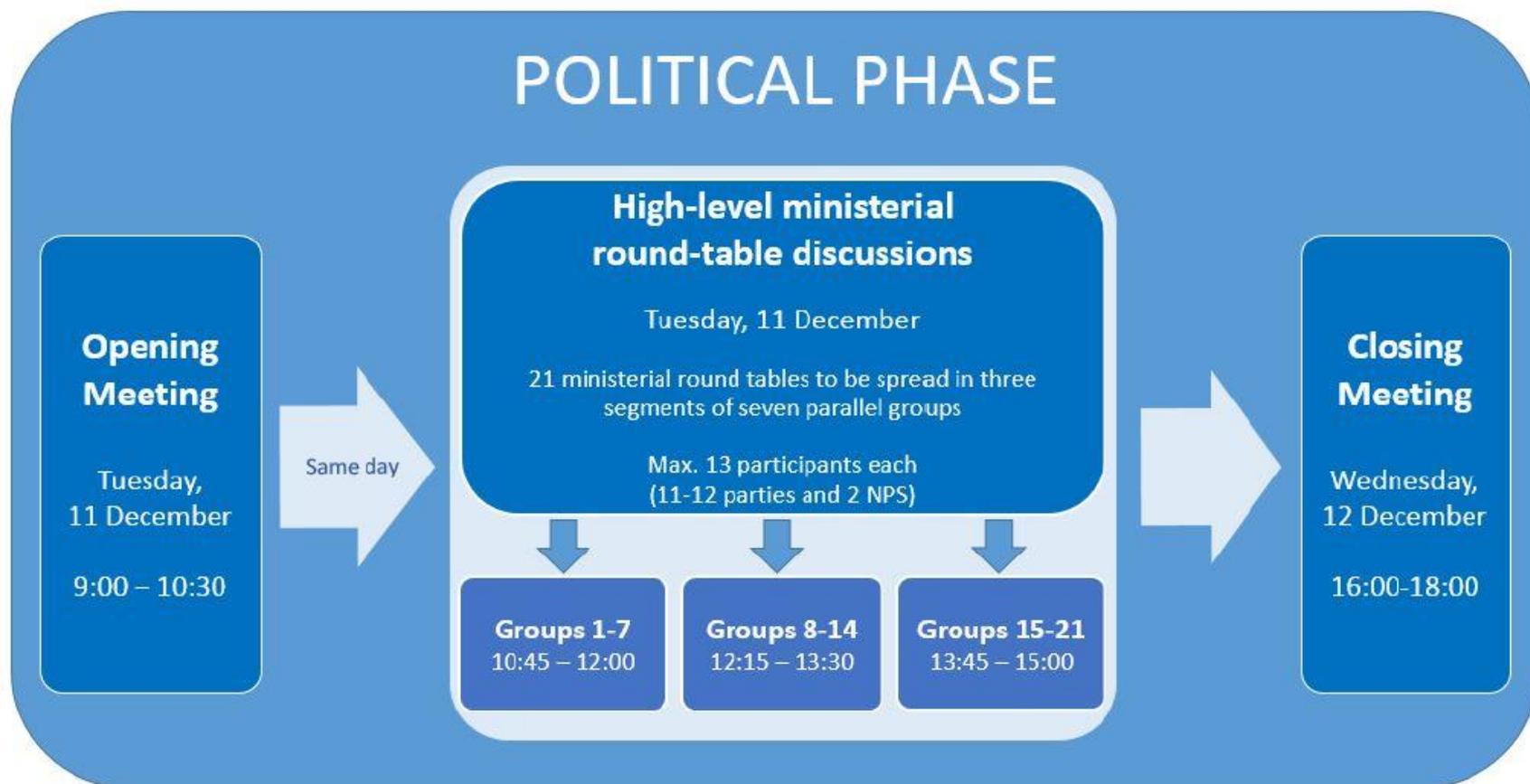
COP24の注目点②タラノア対話(1)

- タラノア対話
 - 2つの目的(dec.1/CP21決定、パラ20)
 - パリ協定4条1項にある長期目標(できるだけ早期にピークアウトし、その後は急激な排出削減をし、今世紀後半に人為的な排出と人為的な吸収をバランスさせる)に対して締約国全体でどこまで進んだかの検証・確認をする
 - パリ協定4条8項にある通り国別約束の準備に資する
 - 3つの質問: Where are we?(我々はどこにいるのか?)、Where do we want to go?(我々はどこに行きたいのか?)、How do we get there?(我々はどうやってそこへたどり着くか?)
 - 2つのフェーズ: COP24で「準備フェーズ」が終わり、「政治フェーズ」へ。閣僚級の参加
 - IPCC「1.5°C特別報告書」の情報
 - 2°C上昇の影響と1.5°C上昇の影響の違い
 - **2030年までの取り組みの重要性**

NDCの提出タイミングと考え合わせると、2020年に提出されるNDCで削減目標の引き上げが決定的に重要

COP24の注目点②タラノア対話(2)

COP24の政治フェーズ < <https://talanoadialogue.com/political-phase-2> >





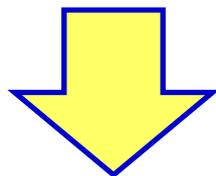
- 平場で、車座になってお互いの顔を見ながら話す。
- 相互の信頼の醸成

※写真は2018年4-5月会合のときの模様



COP24の注目点②タラノア対話(3)

- パリ協定に合意する前から、2°C目標と各国が提出している削減目標との間に大きな乖離(ギャップ)があることが認識されていた
- 2100年に**約3°C**の気温上昇に向かう経路に沿っている
- タラノア対話を、2020年に提出が予定されている、**各国の新しいNDC策定の指針とする**(dec.1/CP21, para.20)



とりわけ削減目標が低い日本にとって、
今回のタラノア対話を踏まえて、目標を大幅に引き上げないと、パリ協定で貢献する機会を失いかねない

石炭にNoの声



2018年9月バンコク会議で。会議場前で開催された脱石炭・脱化石を求めるアクション

ご静聴ありがとうございました

お問合せ・ご連絡先

地球環境市民会議(CASA)

TEL:06-6910-6301 FAX:06-6910-6302

E-mail: office@casa.bnet.jp

URL: <https://www.bnet.jp/casa/>